



# 天文資料

2019年 2月号

平成30年度 第11号 (2月号)

平成31年1月26日

発行：佐世保市少年科学館

佐世保市少年科学館



## <双眼鏡で楽しめる星雲・星団のご紹介>

2月3日(日)は節分、4日(月)は立春です。季節の言葉の中に「春」が入ると、心も春めいてくるので不思議ですね。日の出、日の入りも変化がはっきりわかるようになります。日の出は早く、日の入りは遅くなりますので、そこからも「春」を感じ取ってください。

夜空の方を見上げますと、冬の華やかな星々を抱える星座が主役の位置を独占しています。

今回は、その星座の中にある代表的な星雲・星団をご紹介します。空がある程度暗ければ肉眼でも見えますから、位置を確認して双眼鏡を向けることができれば楽しく観望できると思います。(望遠鏡では多分はみ出してしまいかも…)

★ オリオン大星雲(M42)…オリオン座の中心にある三つ星のすぐ下にあります。ぼんやりとした星が小さく三つ並んだように見えます。双眼鏡では、鳥が翼を広げたように見えます。



★ ヒヤデス星団(Mel25)…おおいぬ座の顔の部分に当たる大きな散開星団です。オリオン座の右上にあります。赤い一等星アルデバランを含む「V」の字に星が並んでいます。



★ プレアデス星団(M45)…「すばる」の名で古くから親しまれている星団です。片手鍋のような形に星が並んでいます。ヒヤデス星団より高い位置で、にじんだ星の集まりに見えます。

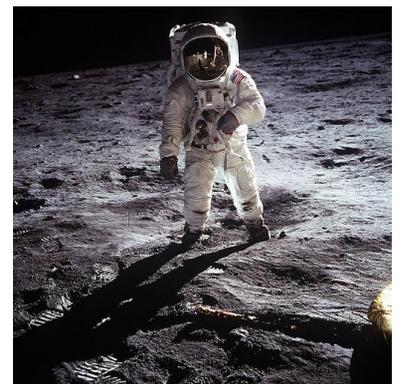


オリオン座ベテルギウス、おおいぬ座シリウス、こいぬ座プロキオンでつくる冬の大三角の中を、冬の天の川が流れています。ここからふたご座、ぎょしゃ座、ペルセウス座と辿っていくと、いろいろな星雲・星団を見ることができますので、ぜひゆっくり双眼鏡や望遠鏡を向けてみてください。

## <月面着陸50周年>

1969年7月20日、人類が初めて月面に降り立ちました。アームストロング船長及びオールドリン操縦士が月面を飛び跳ねるようにして移動していく姿は、50年たった今もよく覚えています。舞い上がった砂がゆっくり落下していく様子から、月の引力は地球の引力よりもずいぶん小さいものであるということも実感しました。

現在、宇宙飛行はISS(国際宇宙ステーション)が中心ですが、それを可能にしたのは、このようなミッションから得られた知識・技能があったからだと思います。今後、人類はより遠い惑星への有人飛行を目指すでしょう。次の50年で、宇宙開発はどのように進んでいるのでしょうか。それを見られるのは、今の子どもたちです。しっかり勉強して、このようなミッションに直接かかわれる人が出てくることも期待したいですね。



オールドリン操縦士

(アームストロング船長撮影)